



洗淨（清拭）評価に有効なわけ

1、汚れの指標に最適な物質

～ATP、ADP、AMP～

2、ATP+ADP+AMP量と細菌数の関係

～細菌数も制御できる環境をつくるために～

3、プラスADP、AMP測定の優位性

～医療現場で！食品現場でも！～

4、洗淨（清拭）評価に有効なわけ



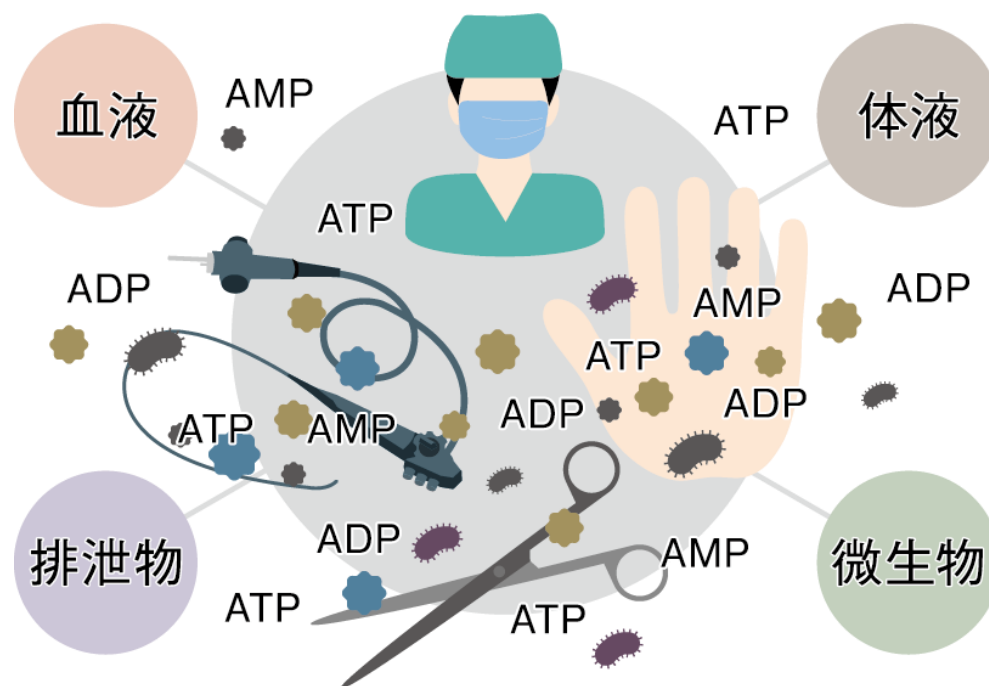
1、汚れの指標に最適な物質

ATP (アデノシン三リン酸)

ADP (アデノシン二リン酸)

AMP (アデノシン一リン酸)

ヒト由来の汚れや微生物等に含まれる3つの物質を指標に！



血液、リンパ液、消化液、唾液、汗などの体液、排泄物、分泌液、組織片、微生物などに含まれます。

ATP+ADP+AMP量で洗淨（清拭）評価ができる



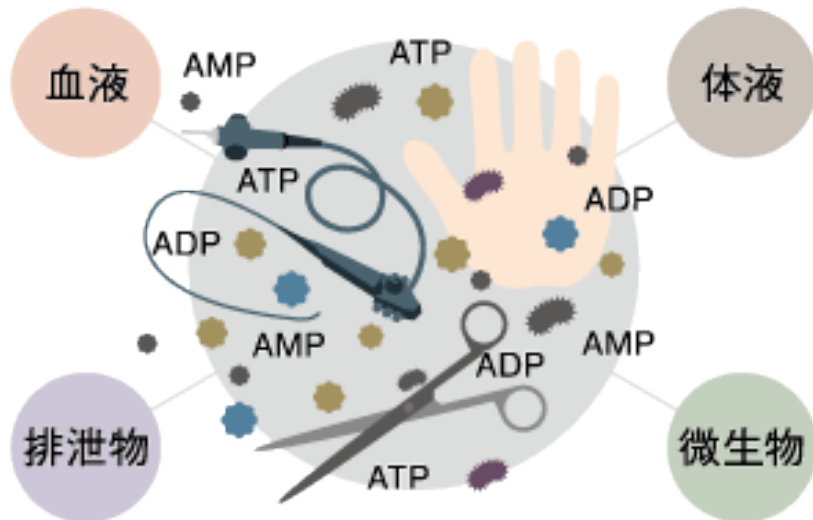
洗淨前

ATP+ADP+AMP量が多い
 ▶ 汚れも微生物も多い
 ▶ 洗淨不足と判定



洗淨後

ATP+ADP+AMP量が少ない
 ▶ 汚れが少なければ
 微生物も除去される



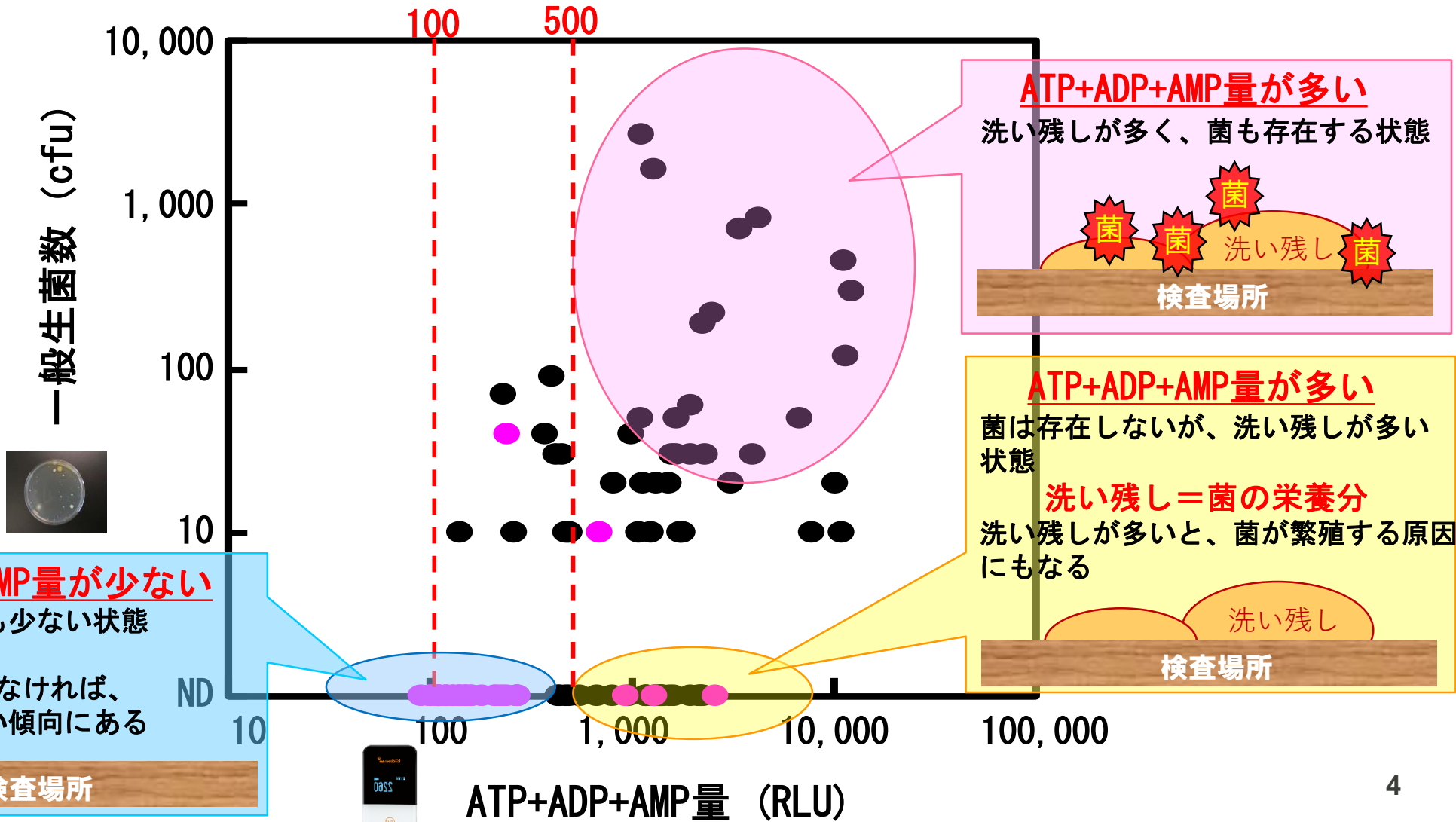
洗淨



2、ATP+ADP+AMP量と細菌数の関係

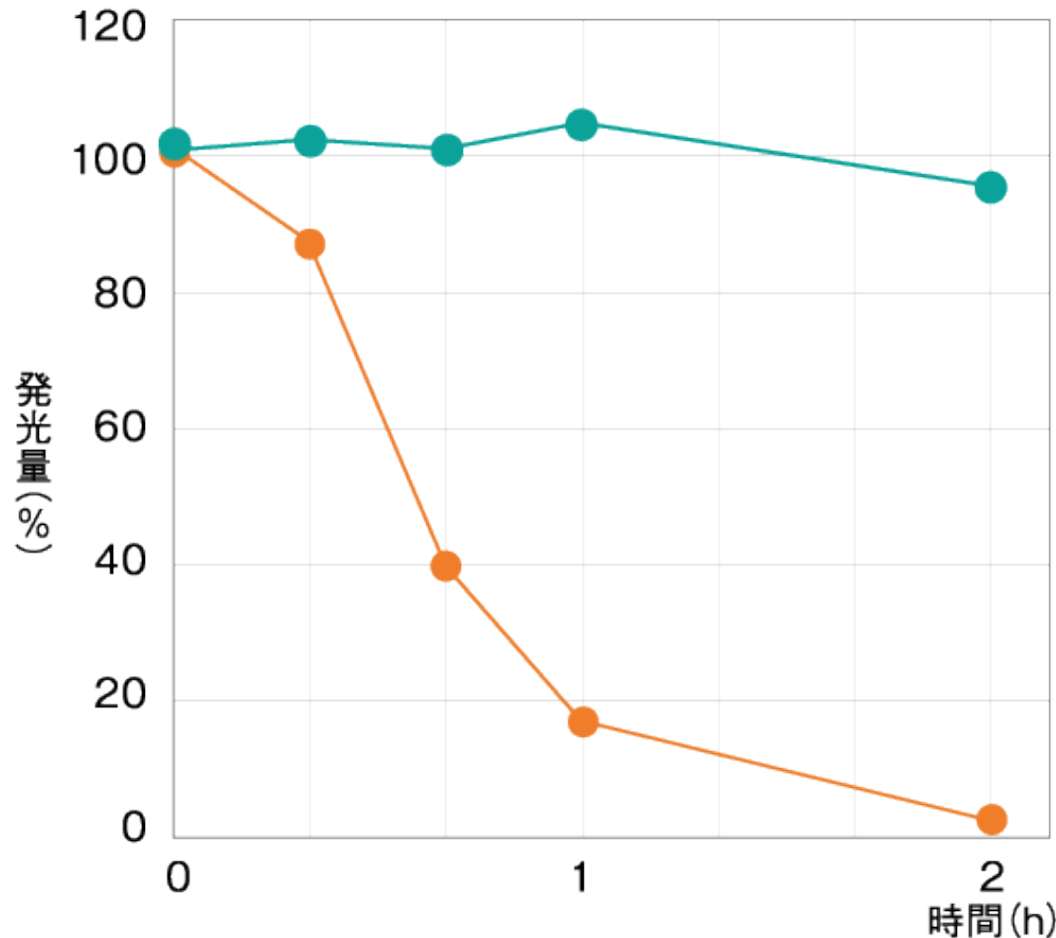
ATP+ADP+AMP量で細菌数を制御できる環境がわかる

● 清拭前
● 清拭後



3、^oプラスADP、AMP測定 of 優位性

溶血によるATP → ADP、AMPへの分解



● ATP+ADP+AMP測定 (A3法)

血液中の酵素により、ATPがADP、AMPに分解されてしまっても、A3法であれば発光量は低下せず**安定して測定できる**

● ATPのみ測定

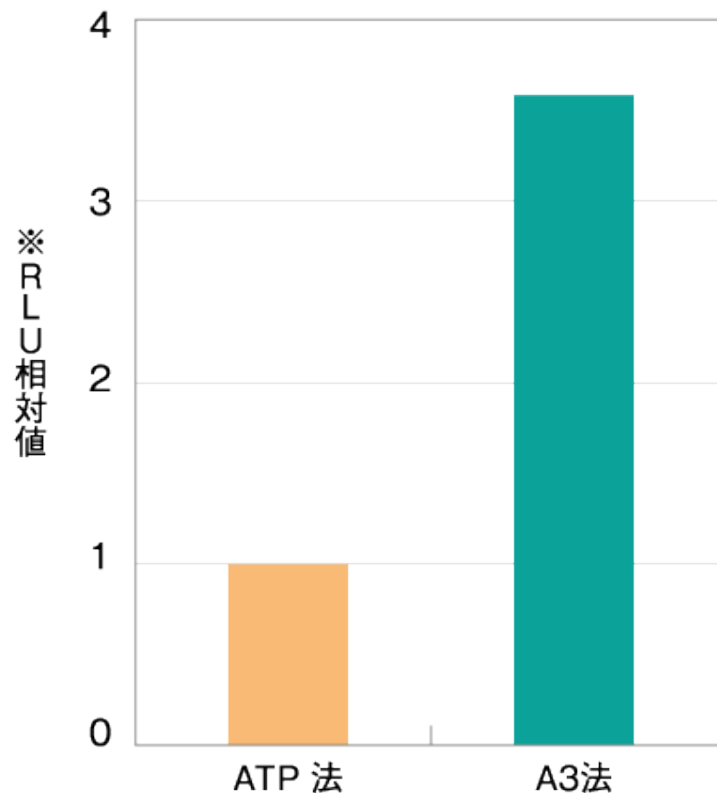
ATPのみの測定は発光量が**減少し**、正しく測定できない

【方法】血液を純水で10倍希釈し、35°Cで保存した。
経時的にATP量とATP+ADP+AMP量を計測した。

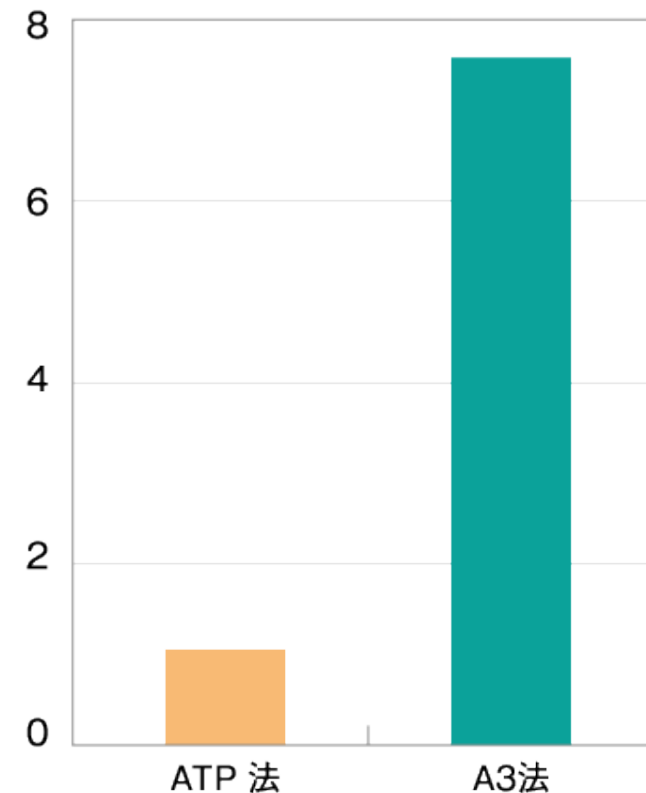
消化器内視鏡チャンネル内の汚れ比較

※ATP法を1とする

【上部内視鏡の汚れ】



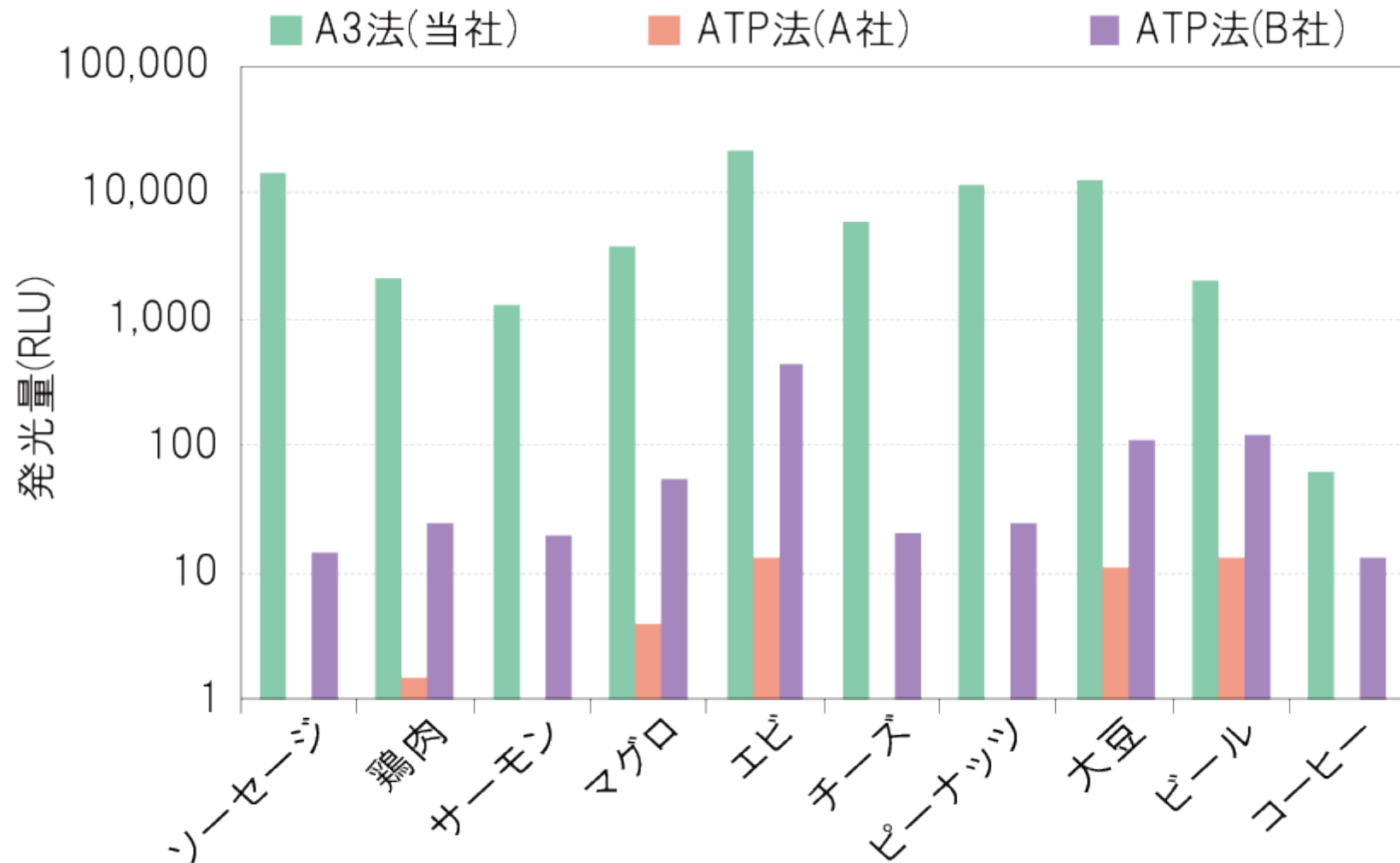
【下部内視鏡の汚れ】



汚れの指標となる物質が多い検査方法が、感度的に有利である。A3法は、ATP法と比べて、上部の汚れを3.5倍、下部の汚れを7.6倍高感度に検出できた。

食品産業でもA3法は重要とされている

他社製品との比較データ（感度の違いは明らか）



感染対策として、洗淨（清拭）作業は極めて重要

- ATP、ADP、AMPは医療現場のあらゆる汚れに存在するので、汚れの指標として最適である。
- 菌だけではなく、菌の栄養源となる洗い残し、拭き残しまでチェックすることで、菌を増殖させない環境を作れる。
- プラスADP、AMP測定により、高感度で正確に汚れを確認できる。

以上

